

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成23年12月8日(2011.12.8)

【公開番号】特開2009-134274(P2009-134274A)

【公開日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【年通号数】公開・登録公報2009-024

【出願番号】特願2008-270662(P2008-270662)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/1339 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/1339 5 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月20日(2011.10.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

基板上に有機材料を含む膜を形成し、  
前記有機材料を含む膜上に、表面に固着剤が設けられた球状スペーサが分散された液体を吐出し、  
前記吐出された液体を乾燥させ、  
加熱処理により、前記球状スペーサを前記固着剤によって前記基板上に固着させることを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 2】

請求項 1 において、  
前記有機材料を含む膜は、有機シランを含む膜であることを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 3】

請求項 2 において、  
前記有機シランを含む膜は、加水分解基を有することを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 4】

請求項 3 において、  
前記有機シランを含む膜は、フッ化炭素鎖を有することを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 5】

請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか一において、  
前記有機材料を含む膜は、前記球状スペーサが分散された液体に対して撥液性を示すことを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 6】

請求項 1 乃至請求項 5 のいずれか一において、  
前記基板上に形成された導電層又は遮光膜と重なる領域に、前記球状スペーサが分散された液体を吐出することを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 7】

請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか一において、

前記吐出された液体を乾燥させることにより、前記吐出された液体内で前記球状スペーサが移動することを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 8】

請求項 1 乃至請求項 7 のいずれかーにおいて、

前記球状スペーサの表面は、前記固着剤で覆われていることを特徴とする液晶表示装置の作製方法。

【請求項 9】

請求項 1 乃至請求項 8 のいずれかーにおいて、

前記球状スペーサが前記基板上に固着された後、前記基板上に固着された球状スペーサをマスクとして、前記有機材料を含む膜を選択的に除去することを特徴とする液晶表示装置の作製方法。